

市民と行政の協働による新しいふるさとづくり

市政懇談会における意見・質問の概要 その2



2月に開催された市政懇談会のうち、ここでは吉田・三刀屋・大東会場でのご意見やご提言、質問への回答についての概要を、市のめざすまちづくり施策ごとに紹介します。

Q 自治会や各種団体に対する補助金交付金の取扱いを伺いたい。削減するにしてもできるだけその幅を小さくして頂きたい。

A 自治会活動費等の補助金については、活動が低下しないようにという考えを前提に引き続き交付していかなければならないと思っております。また、交付金等についても団体の運営に減退感が出てくるのではないようにしなければならぬというスタンスで取組みたい。

あらゆる知恵と工夫でできるだけ早く要望に沿う形にもって行きたいと思つて。

Q 高速道路の完成により、余計過疎になったでは困る。市としてどのように考え、取組まれるのか。

A 高速道路の開通によって便利にはなるが、人・物・金が全部出て行ってしまつという危険性がある。そうならないために、高速道路を使ってたくさんインターから降りて頂ける魅力あるまちづくりを早期にしていかなければならないと思つてゐる。

A 老人福祉計画を早期に策定し、高齢者の社会参加や就労促進、あるいは交流の機会や活動の場の確保、情報提供の推進を図っていききたいと考えている。

また、国の補助対象外とされた単位クラブの活動助成についても、雲南市の単独事業として補助し、生きがい対策や健康づくり対策のサポートをしていこうという方向で検討している。

ふるさとを愛し豊かな心を育む教育と文化のまち

Q 小学校の児童が減少し、学級運営が難しいと聞いているが、小規模校の統合をどう考えるか。

A 少子化が進む中で、特に極小規模の学校をどうしていくかが大きな課題。子供の数が少なくなったからすぐに統合とすることができなく、合併したスケールメリットを發揮し、この地域の

誰もが健やかに安心して暮らします

Q 旧6町村の老人クラブに対し、行政から活動助成を頂いていたが、助成の格差が大きいため、格差是正をして欲しい。また、運営も厳しい状況なので、助成額の少ない町への配慮もお願いしたい。

できたことであるし、それを実践していかなければならないと考えている。

行財政対策のしんぶん

Q 合併特例債等が、大幅に削減される中、その使途について伺いたい。

A 合併特例債や交付税の算定替の特例は今後10年間の期限付き。これは「協働の自己や「ふるさと産業の創出」によってこの地域を自立させるための猶予期間と考えている。その間に住民の皆さんと知恵を出し合い新しい雲南市をつくっていききたい。そのための財源はきちんと確保していきたいと思つてゐる。

その他意見とつて

■市長には合併後すぐに自治会の方へ来ていただき、非常に心強く思つています。今後も、積極的に地域の実情を見ていただきたい。

■各町から代表が出て、お互いの意見交換等の機会を持つことが、今後の市の発展に必要なのではないかと。■三刀屋高校も総合教育の指定校になった。地域と学校が共存共栄していこうように高校へも要望して欲しい。

懇談会へ参加していただきありがとうございました。

今年度も5月から6月にかけて、市内34会場で市政懇談会を開催する予定にしています。

日程等については、後日、お知らせします。

市民が主役の自治のまち

Q 地域自主組織と地域委員会の関係やその機能について説明して欲しい。

A 地域委員会の役割は、まちづくりの進言や提言、地域自主組織への情報提供や支援、センターからの諮問等に対する答申、地域づくり計画の策定や地域要望の取りまとめ等がある。また、

地域委員会は、地域自主組織やNPO、まちづくりグループ等の活動を支援していく役割もある。そして、これらの活動に対しては、平成17年度から地域振興基金を活用していこうと考えている。具体的な支援の方法や進め方は、今後総合センターや地域委員会等と調整を取りながら周知を図って進めて行きたい。

良さを活かした山村留学等の施策と抱き合わせた増加対策を講じてきた。また、学校は地域の大きな核になっており、住民の居場所や心の拠所となっているため、統合合については、まず、地域の皆さん、保護者、学校が、それぞれ学校の役割等についてしっかりと話し合いをつづける必要がある。

また、中山間地直接支払い制度は平成17年度から更に5年間実施されるが、だんだんと高齢化していく状況の中では、農家だけでなく、非農家も含めた集落ぐるみで知恵と汗を出し合つて、農地を荒廃から守っていただく取組みを頑張つて頂きたい。

Q 若い人が帰ってくるためにはならない。通勤圏内に工場誘致等の考えはないか。

A ふるさと産業の創出を図り、雇用の場を確保していくことが必要ではないかと思つている。一挙にどんどん良くなるというものがあれば一番良いが、知恵と工夫を凝らし雇用の場の確保にも努めたい。既存の企業が更に頑張れるよう、商工会とよく情報交換しながら、事業が成り立つ支援対策を心掛けたい。

地域の一体化のしんぶん

Q 地域の一体化をどのようにつなげていくかが問題だ。昭和の大合併でもかなりの時間を費やした。情報網を活用し、一体化を図ることも必要ではないか。



A 農業振興は「ふるさと産業の創出」の根幹を成すもの。圃場整備ももちろんだが、棚田等が投げやりにされ、荒地への一途を進めるようなことがあってはならないと思つてゐる。

Q この地域の一番大切な産業は農業である。法人化や協業化できる条件の良い所だけが発展し、山間部が廃れることの無いよう考えて欲しい。

多様な地域資源を活かした産業が発展するまち

A インフラ整備については「凹」があるので、これをすべて高いレベルにもって行く努力をしなければならぬが、高いところの町はただ手をこまねいておいていいことではない。オンラインワーカーなど、それぞれの町の特徴を更に伸ばしていく施策が進められなければならない。このことは、合併協議で充分議論し

